

実災害時出動後における DMAT車両内の見直し

岩手県立胆沢病院 1)看護科, 2)災害医療科
三田涼¹⁾ 忠地一輝²⁾ 小野寺克洋²⁾ 古舘篤²⁾ 小野寺真知子¹⁾
小嶋麻衣¹⁾ 菅原寛²⁾



はじめに

- ◆当院は出動時に患者搬送が可能な救急車ではなく、T社の業務用バンを使用している。
- ◆令和6年能登半島地震への出動に際して、医療資機材のほか、数日間自活できる装備を車載した。

【活動中の問題点】

- ・後部座席の後方に棚を設置していたが、積載物が多く、ルームミラーでの後方安全確保が不十分であった
- ・道路状況が悪かったため、積載物の落下・横転が多かった
- ・必要資機材の選択や取り出し・返却が難しい



車内を改造し活動しやすい環境作りが大切であると判断した



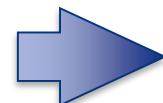
出動前



帰還時

方法

- ◆隊員内でレイアウトを作成し、病院作業手に車内の改造を依頼した。使用したものは院内在庫品を活用した。



棚を後部座席後方から助手席側車両後方に移設した。



酸素ボンベは木枠を作成し、横転予防した。
後部座席後方の棚の一番下に収納できるように設置した。



運転席側車両後方に衛星電話やトランシーバーを充電する棚を設置した。

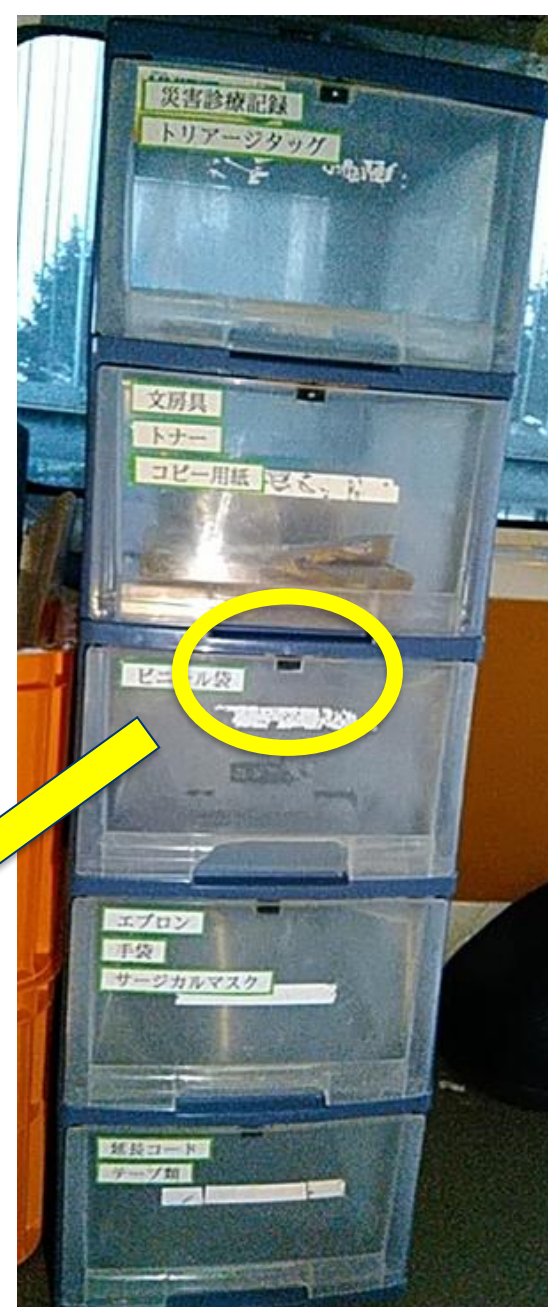
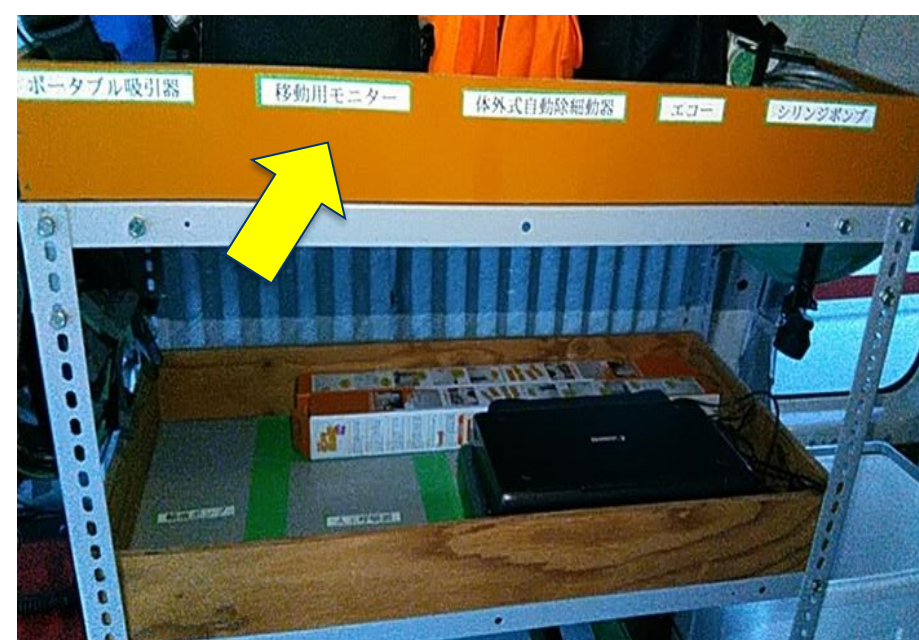


活動着をバンドで固定し、落下予防した。



オスカルバック
固定ゴム

オスカルバック赤・黄はトランク出口手前に配置し、直ぐに取り出せるようにした。
オスカルバックはゴムバンドで固定し、横転予防した。



資機材の配置場所を写真やテプラで掲示し、DMAT隊員全員が共有できるようにした。
収納棚は固定し、走行中に引き出しが飛び出さないようにマグネットを引き出し口に付けた。

結果

- ◆これらの改造により運転時の視野の確保ができ、資機材の横転・落下がなくなったことで、走行時の安全性が高まった。
- ◆資機材の配置場所を決めたことで、隊員全員が必要な資機材の選択や取り出し、返却が容易となった。



運転席からみたルームミラー

考察

- ◆長時間の移動が必要な災害対応では、車内の改造や最適な収納方法が、安全かつ効率的なDMAT車両の活用に必要なものである。
- ◆今回のDMAT車両の改造は5S活動にも通じ、かつ低コストで改造ができるため他のDMATも参考にできるものとする。